

四谷地区協議会だより

No.

7

第7号

平成24年11月発行



—ぼいす—
Voice

四谷一丁目界限

四谷駅前交差点

10

11

12



10

11

17

しんみち通り

神酒所前おはやし

花園町界限

15

16

17



15

16

三遊亭円朝旧居跡(花園公園協)

花園公園(スクールパーク)

花園小学校

昔あそびの
図鑑
発見!

詳しくは8頁のお宝秘話をご覧ください。





こんにちは町会長さん！...

皆様のまちの町会長さんに、わが町の魅力を語っていただきます。

今回は**四谷一丁目**と**花園町**です。

(ご紹介する町会は町会連合会で随時決定されています)

Q1 名物・名所、ご自慢をお教えください！

四谷一丁目町会

四谷一丁目は昭和18年に麹町十一丁目・十二丁目、伝馬町一丁目、尾張町、仲町一丁目を合併して成り立ちました。このため、今でも須賀神社の祭礼と麹町の氏神さまである日枝神社の祭礼を行っています。

花園町町会

我町の年中行事は5月の最終週に行われる花園神社の例大祭から始まり、夏にはスクールパークで行われるドジョウつかみ大会、子ども相撲大会そして納涼踊り大会と続き、活気あるイベントが町会を彩ります。

Q2 とっておきのお話や人気行事、面白ごばれ話を教えてください！

四谷一丁目町会

四谷一丁目には無番地というところがあります。JR四ツ谷駅です。ここ数年、町会神輿を駅中で担がせていただいておりますが、なかなかいい感じですよ。

花園町町会

高齢者クラブは100名の会員を数え、春秋には新宿御苑で、夏には納涼船で、四季折々の親睦会が盛んです。また、花園町親交会主催のはなぞのまつりでは日頃より交流のある千葉県睦沢町の協賛によるフレッシュな野菜の産直販売が好評です。

Q3 その他貴町会のPRなど、ご自由にご記入ください！

四谷一丁目町会

商業の街と住宅街という2つの顔をもっています。明治・大正時代には、四谷一丁目の大横町が区内第一の繁華街でした。その伝統を受け継ぎ、新宿通り、しんみち通り、三栄通りとたくさんのお店・飲食店が今でも軒を連ねています。また町会の南側の通りを一本入るととても閑静な住宅街になっています。

花園町町会

繁華街がありますので、日頃より安全安心の町づくりに力を入れ、町内に16基の防犯カメラを設置しています。年末には恒例の餅つきが行われ、夜警巡回の音が聞こえると無事に終わる一年に感謝しつつ新しい年を迎えます。都会にあっても昔ながらの行事を大切にしています。



花園町親交会風景



四ツ谷駅構内をねり歩く神輿

四谷の スポットガイド 募集中！

四谷地区協議会 観光まちづくり実行委員会



観光まちづくり実行委員会では「住んで良し、訪れて良しの四谷」をつくるために、四谷の観光ポイントと四谷に伝わる昔話を研究し、四谷内外の方々に観光まち歩きを通してその魅力を伝える活動を始めています。ただ今、「**スポットガイド**」を募集中です。「**スポットガイド**」とは、従来のような観光コース全体のガイドではなく、1カ所（スポット）のみの説明（ガイド）をしていただく制度です。



また、スポットガイドの公教育との共有化と後進育成も四谷ならではの観光まちづくりの新しい課題として取り組み始めました。

※スポットガイド登録には各町会の推薦が必要です。詳しいお問い合わせは四谷地区協議会事務局まで。

地域で学ぶ「四谷学」

四谷の魅力を発見しよう！ 写真から読み解く「四谷の心」

ご存じ四谷中学校で提唱されている「四谷学」。1年に1回開催される地区協議会版の「四谷学」が、去る9月8日に四谷地域センターをお借りして開催されました。

今回のテーマである「四谷の魅力」を古い写真の記憶を手掛かりに参加者皆様と考える機会となりました。

東武博物館名誉館長 花上嘉成氏による講演は、懐かしい都電のある風景写真が醸し出す雰囲気タイムスリップしたひとときでした。また、氏の体験を通し語られた例えは、新しい建築物が世界的にクローズアップされてもそこだけが賑わってしまう。本来の地域の発展にはつながらない。開発には周辺への配慮が必要不可欠」という力強い言葉が印象に残りました。

そして、続くデイスカッションでも、新宿歴史博物館よりお借りした昔の写真を見ながら、四谷を愛する4名のパネラーの方々（公益財団法人東京観光財団理事 齋藤源久氏、東武博物館名誉館長 花上嘉成氏、四谷四丁目町会長 坂部健氏、四谷地区協議会観光まちづくり実行委員会委員長 田



中健士氏）が、各商店が力を合わせた合同展示会の逸話等、それぞれの記憶に残る四谷の思い出を意見交換し、とうてい時間内では「魅力」は語り切れず：今後も四谷地域の古い写真を残す活動を具体的に推進したい旨の呼びかけで締めくくられました。オブザーバー参加の新宿歴史博物館宮沢学芸員も四谷の地域愛に感嘆されていました。

魅力あふれる四谷の地域自慢ともなりましたが、とにかく「四谷が大好き！」そんな暖かな気持ちを共有できました。

来年もお楽しみに！

みなみもと町公園につくられたビオトープ（生物生息空間）

なんげんトープ トピックス



1 盛況なオープニングイベントが開催できました！

去る6月8日に四谷地区協議会が主催するオープニングイベントがみなみもと町公園で開催されました。当日発表された地域愛称は「なんげんトープ」。地域から応募のあった名称案を、町会連合会で審査いただきました。



当日は100余名の参加者があり、内藤とうがらしの植樹、ドジョウの放流など、にぎやかに完成祝いが行われました。イベントの最後に皆さんと公園を清掃し、ビオトープを守る3つの約束を誓いました。

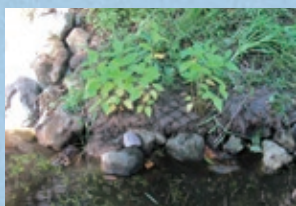
ビオトープの「お約束」
3つの決まりを守って、「なんげんトープ」を大切にしよう！

- その① そ〜っと静かに観察しよう！
さわぐと生き物がいなくなっちゃうよ。
- その② 生き物（ザリガニ、カメなど）を持ちこまない！
生き物の世界を壊さないようにしようね
- その③ 生き物や植物をとらない。
みんなが観察できるよう残しておいてあげようね



2 2012 夏の思い出風景

この夏の「なんげんトープ」の風景をご紹介します。



どじょうやめだかも生息しています



「ホトトギス」の花がひっそりお出迎え



「なんげんトープ」は地域愛称♪

「町」の名前について、区の地域調整課に聞きました!!

声

「町の名前について、長年感じている疑問があります。とくに『〇〇町』の『町』の読み方についてです。地域では『〇〇ちょう』と呼ぶ人が多いのに、住居表示上の正式な読み方では『〇〇まち』だったり、またその逆のところがあったり。地域住民は違和感を感じることもあるのですが……」

最近、地区協事務局に、地域の方からこんな疑問が寄せられました。また、私たちが住む町にはそれぞれ名称が決定された町会がありますが、「〇〇町」にある町会が「□□町会」だったり、町会名と住居表示の名称が違うケースもときどき見受けられます。

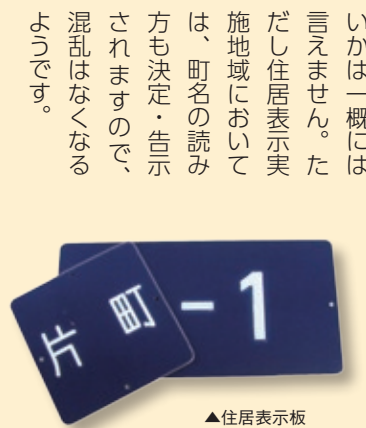
こうした「町の名前」にまつわる疑問を解決すべく、区の地域調整課住居表示係にうかがいました。

Q1 「町」の読み方（〇〇ちょう、〇〇まち）で、地域の多くの人が呼んでいる読み方と、行政が決めた読み方が違うのはなぜですか？

A 新宿区成立以前の公文書には、町名の漢字のみが記載されているだけで、それをどう読むかが書かれているものはありません。古地図などを見て、「マチ」「チャウ（チヨウ）」と読み方が時代によって変わっている町名もあり、古くからいるような呼び方をされていたことがわかります。また、それぞれの町名そのものも、地域性や由来、歴史的経緯があり、それに付随する「町」の読み方も、どちらが正し

Q2 町会名と住居表示の町名が違うことがあります。これはなぜですか？

A 過去に町名変更がおこなわれ、かつての町名を町会名に残したと



いかは一概には言えません。ただし住居表示実施地域においては、町名の読み方も決定・告示されますので、混乱はなくなるようです。

Q3 「町」の読み方を変えてほしいときには、どのような方法で、どのような手続きが必要ですか？

いうケースがほとんどです。町会は、地域住民の方々によって、自主的に構成あるいは組織された任意の団体です。そのため、住居表示が実施されて町名が変わっても、「町会の名称」や「町会の区域」などを変更する義務はありません。また、住居表示に関する法律が改正される以前は、町名を大きく変更する例がありました。改正後は、できるだけ従来の名称に準拠して町名を定めるように規定されています。

A 「〇〇町」の「町」の部分は、町名の一部。この読み方だけを変更したいと要望する場合でも、町名変更と同じ手続きが必要になります。また住居表示をすでに実施している町の場合と、これから実施する町の場合では、方法が異なります（実施地域、未実施地域については左地図参照）。まず住居表示をすでに実施している町の場合です。

①町名の読み方を変えたい旨の要望を区長に出すか、区議会に請願または陳情を提出します。

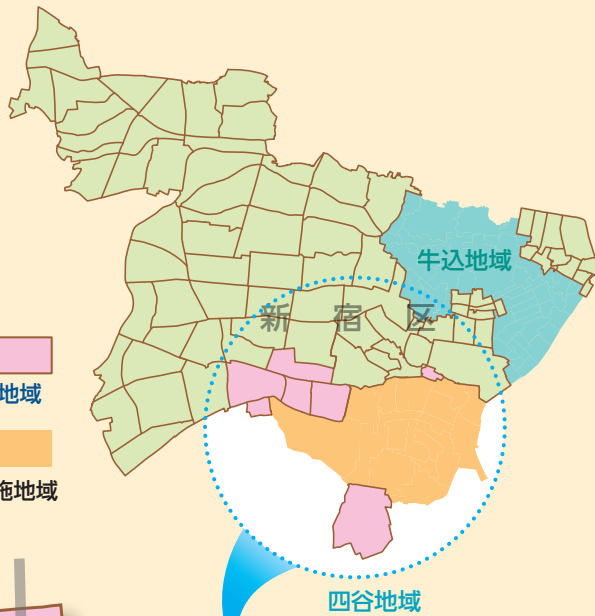
②要望を受け、区長が必要と認めた場合は、住居表示審議会へ諮問します。請願、陳情の場合は、議長が所管の委員会へ審査を付託し、本会議で採択が議決されると、区長へ送付します。このあとは、区長が必要と認めた場合と同じです。

③区長は審議会の答申を受けて議案を提出、議会の議決を経て、告示をする町会の読み方が変わります。

一方、住居表示を実施していない地域は、住居表示の実施にあわせて、読み方を含めた町名の検討をおこないます。決定前に各町会などを通して、ご提案いただく方法もあります。

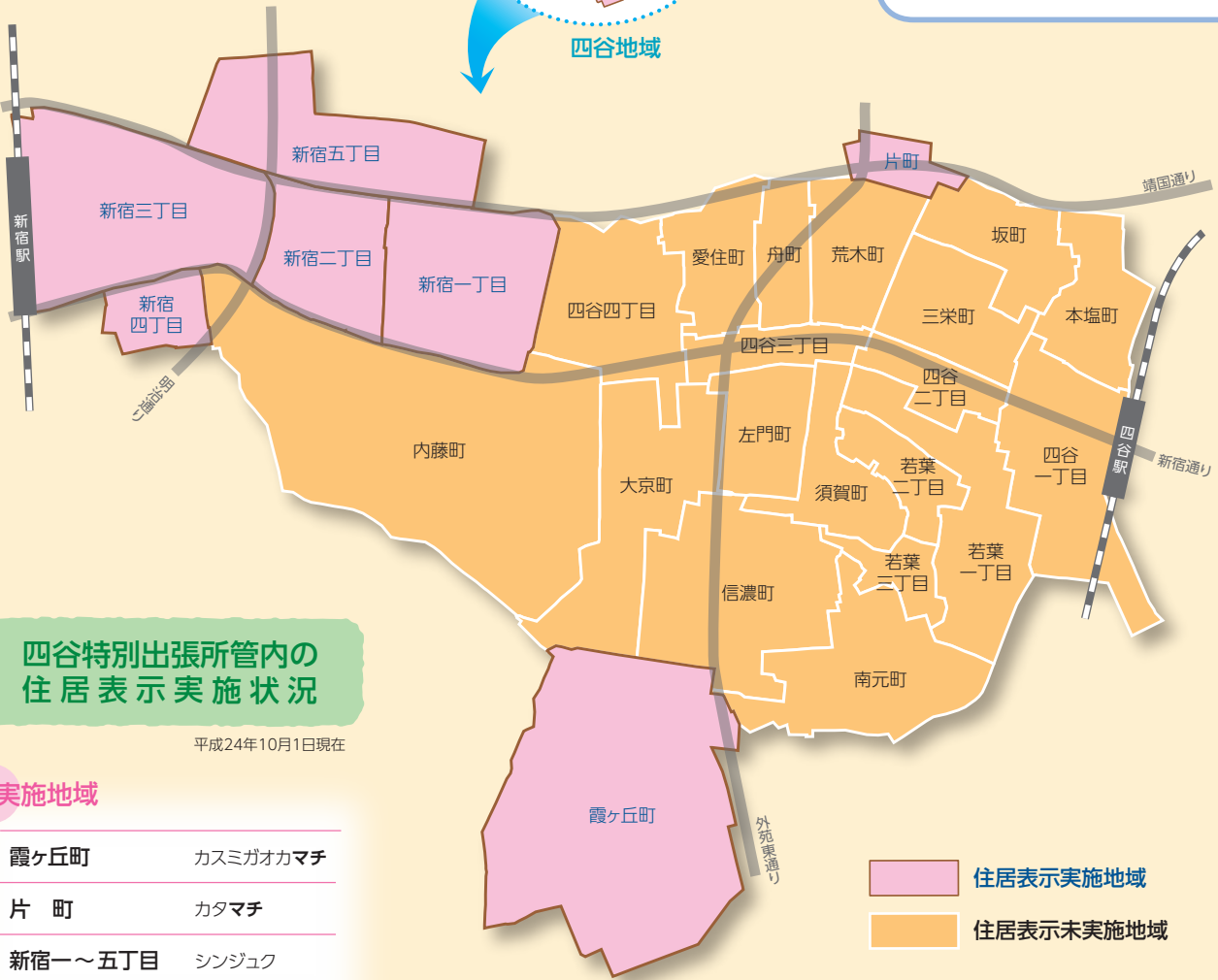
住居表示とは？

住居表示実施地域
住居表示未実施地域



住居表示とは

1962年に施行された「住居表示に関する法律」に基づく住所の表し方が「住居表示」と呼ばれます。町をわかりやすくして、郵便物を届けやすくするための法律で、実施には、読みを含む町名の変更が生じる場合があります。この法律にしたがって、新宿区では現在まで、面積比で約75%、84の町で住居表示を実施しています。とはいえ、とくに四谷、牛込地区は未実施の地域が多く、現在、実施に向けた準備が進められています。



四谷特別出張所管内の住居表示実施状況

平成24年10月1日現在

実施地域

霞ヶ丘町	カスミガオカマチ
片町	カタマチ
新宿一～五丁目	シンジユク

未実施地域

愛住町	アイズミチョウ
荒木町	アラキチョウ
坂町	サカマチ
左門町	サモンチョウ
三栄町	サンエイチョウ

信濃町	シナノマチ
須賀町	スガチョウ
大京町	ダイキョウチョウ
内藤町	ナイトウマチ
舟町	フナマチ

本塩町	ホンシオチョウ
南元町	ミナミトマチ
四谷一～四丁目	ヨツヤ
若葉一～三丁目	ワカバ



四谷地区協議会です!

今年で四谷地区協議会が発足して7年目を迎えます。この協議会は四谷特別出張所管内 29 町会の町会員の皆様を始めとした、四谷を愛する人々で構成されています。そして「声」第 6 号で紹介させていただきましたように、管内の様々な地域団体と連携している組織です。そもそも、地区協議会とは、地域課題を区民が自ら考え、解決する場であります。また、事務局が出張所にあることで行政との協働を検討するうえでも利点があります。私たちは地区協議会という「場」を有効に活用しながら、これからも変わらずに皆さんと一緒に歩みたいと考えます。



★各分科会のリーダーが代表して回答しました!★

各分科会のテーマ	第1分科会 まちづくりを考える	第2分科会 健康で安心なコミュニティづくりを考える	第3分科会 生活環境・まち美化を考える
分科会で意見が出る「四谷」の良い所はどんなところですか?	長い歴史がある町でありながら、荒木町に代表されるような活気や賑わいもある。また、歴史に裏付けられた人情があふれるところも魅力。	課題解決のために汗をかいて行動に移したことを地域全般で後押ししてください。四谷は様々な先進的活動を広い視野で見られるまち。	地元の生まれ育ちの人がまだ多くいる。四谷地域にプライドを持っている。地域の手で地域の事業を行うことが出来る。
分科会ではそれをどのように活かしてどんなまちにしたいですか?	歴史は四谷の財産。何よりそれを大切にしながら、新しい顔とも積極的にコラボレーションしたい。そうして外からたくさんの方が訪れるまちにしたい。	協議会委員以外の多くの方にも関わっていただきながら、「豊かな生活を過ごせるまちづくり」のために地域団体の力を活用したい。	四谷らしいまち美化を次の世代に伝えていく。内藤とうがらしを地域ブランドとして育成、まち美化緑化のシンボルに。
分科会でよく意見が出るまちの課題はなんですか?	四谷にはさまざまな課題が山積しているが、その課題を掘り起こしていくことが先決。まずは課題を意識することこそ「課題」と考える。	地域と関わるのが希薄になりつつある現代に不足している、多世代にわたる交流と共助のまちづくりに関すること。	新規参加者、次世代の担い手の育成。変化するまち美化の課題(自転車・喫煙・落書き・ごみ収集他)への対応の視点。
それを解決する活動のひとつとしてどんなことに取り組んでいますか?	四谷について知り、学べるイベントを開催している。「四谷を識る勉強会=地区協議会版四谷学」や、資源を掘り起こす「お宝さがし」なども一環。	高齢者向け筋力向上体操の普及、公園のピオトープを活用した多世代交流、児童とのあいさつ運動を通じた地域見守り活動の提供等。	区担当職員や関係企業から学ぶ勉強会。実地調査と提言。地域住民小中学生と取り組むごみゼロ活動、花いっぱい運動。
今後の分科会活動への思いと方向性を教えてください。	人的資源を活用しながら、まちを見直し、人の顔が見えるまちにしていきたい。また、住民みんながその認識を持つことで、地域の活性化につなげたい。	生涯を通し、四谷で元気で豊かな生活を過ごせるまちづくりをめざし、単独団体では不可能な活動を諸団体と協議を重ね連携できる「四谷の底力」を育てていきたい。	四谷らしさに自信とプライドを持った活動を次世代につなげたい。実施事業を通じて参加者を増やし、リーダーを育てたい。



お宝さがしが取り持つ地縁を大切に感じます!



多世代が健康で安心に暮らせるまち「四谷」のために創意工夫します!



広い視野でまち美化を考えます!

四谷ひろば

シニア健康体操

「平成新宿音頭」にあわせた新宿いきいき体操でのウォーミングアップに始まり、パイプ椅子を利用したストレッチ、またカラフルなチューブを手にも、体を伸ばしたり縮めたり……。そんなバラエティに富んだプログラムで多くの参加者を集めているのが、「四谷ひろばシニア健康体操」です。

会場は、旧四谷第四小学校の跡地を利用した「四谷ひろば」。以前は小学校の講堂として使われていた広々としたスペースで、毎週火曜日に40〜50人の参加者を集めて開催されています。四谷地区協議会が主催する「転ばぬ先のストレッチ教室」に比べると、やや激しい運動をおこなう本格的な体操教室です。



笑顔あふれる参加者の皆様

「転倒などがしにくくなる、強い筋肉を作ることを目的としています。とはいえ握る場所によって、運動の強さを各自で調整できるチューブなどを取り入れて、

誰でも自分にあつた無理のない運動ができるので、80代の参加者もいらつしやいますね」（この教室を担当するインストラクターの山口真里先生）。

たとえば椅子に座りながら、つまさきの上げ下げをして、すねの筋肉を鍛える運動。最初は数回しかできなかつた参加者がここに通ううち、楽々40〜50回できるようになることも。汗びつしよになつて1時間のプログラムを終えた参加者の女性も、こう話します。

「きついですよ。でも毎週通ううち、持病だつた腰痛がかなり楽になりました」

どんなトラブルからも身体を守つてくれる、そんな強い筋肉作りを、始めてみませんか？ お問い合わせは四谷地区協議会事務局まで。

ちょっぴりハードなストレッチで本格的な筋肉を作りましょう



山口先生がおすすめ！

どこでもできるキヤットストレッチ

腰痛にも効果があるというキヤットストレッチ。猫ののびの動作に似ていることからそう呼ばれています。1から3の動作を4〜5回繰り返します。



つぎは反対に、ゆっくりと息を吸いながら背中を反らせていきます。今度はお尻を突き出して。最後は1のポジションに戻つてこれを繰り返します。



息をきながら、背中を丸めます。お腹をへこませ、腹筋のトレーニングを意識します。



まずは両手、両膝をついて、四つん這いに。このときは、背筋がまっすぐになるように。

みんなで力を合わせ「四谷」を美しくしましょう！

新宿区の「落書き消去剤」の無料貸し出しを利用しました！

よい道具を手に入れば効果てきめん。新宿区危機管理課には『落書き消去剤』の無料貸し出しがあります。上手に利用してはいかがでしょうか？



くわしい除去剤に関する問合せ
危機管理課危機管理係（本庁舎4階）
☎ (5273) 4592

～百間は一見にしかず～ 四谷530デーの活動風景

→平成24年度の「四谷530デー」で四谷大通り（国道）の標識に書かれた大きな落書き除去に挑戦しました！



↑予想以上の効果に驚き！これならだれでも消せます！

※今回の活動は東京国道事務所に連絡後、四谷警察に道路占有許可の届けを提出しています。



始めませんか？ 町の落書き退治アクション



四谷地区協議会では「まち美化」活動を推進しています。日頃より気になる「落書き」…ペンキで書かれた「落書き」…きれいにすることを、あきらめていませんか？ 「気づいたら消す！」「見逃さない！」この積み重ねで落書きのない町にしましょう。

四谷のお宝さがし

～秘話・こぼれ話をご紹介～



昔遊びの「おもちゃ籠」

第5回お宝探し発表会で、鑑定賞を受賞したのが「おもちゃ籠」と名付けられた、大正初期の本。四谷地区に在住の中島登美子さんのお宝です。発行は大正4年。当時の子供たちが楽しんでいたさまざまな遊びを、カラーの挿絵と文章で紹介した、和紙の本となっています。

中島さんの祖母方の曾祖父は、木戸孝允らにも英語をおしえたことで知られる幕末維新期の蘭学者。その後、一人娘である中島さんに受け継がれた、数々の書物のなかの1冊がこの本でした。

「30年ほど前、茅ヶ崎にあった実家を処分したときに祖父母の持ち物のなかに見つけた本です。挿絵もきれいなので、いつかじっくり読んでみたいと思い、処分せずに四谷に持ち帰ったんですよ」（中島さん）

その後、鑑定士の知人に見せたところ、非売品の希少本だということが判明します。著者は、甲州の若尾財閥の3代目当主、若尾謹之助氏。銀行頭取などもつとめていた同氏が、自身が子供時代に楽しんでいた遊びの数々を後世に残そうと、発行した本だということがわかりました。

たとえば「影絵」の項目を見てみると、さまざまな影絵をあらわしたイラストに、こんな説明がついています。

「手にて種々の格好を擬し、燈火にて之を障子に写すなり。松、草、鳥、狐、獅子、船頭、兎、犬、鶴等は最も普通なる影絵なり」

ほかにも、鬼ごっこなどの遊びの詳しいやり方から、でんでん太鼓などの玩具の紹介、またカルタに書かれる文言まで、当時の遊びにまつわるあれこれが、詳細に紹介されています。

ただし、なぜ非売品のこの本が、中島さんの祖父母の手元に渡ったかは、今となってはわかりません。

「発行年を見ると、ちょうど祖母が父を産んだ時期と重なります。もしやその誕生祝いに、どなたからかいただいたものかしら、などと、さまざま想像を膨らませて楽しんでいるんですよ」

中島さんの祖母は、長州藩の蘭学者の家からお嫁に来た、正真正銘のお嬢様。中島さんが小さい頃、家事などは一切せず、いつも居間でやさしく微笑んでいたおばあさまのことを、この本が思い出させてくれるそうです。



「おもちゃ籠」表紙



かわいらしい昔菓子

影絵あそび

実行委員長のコメント

本を開くたびにご先祖様のことを色々想像して楽しむのは素敵なことですね。代々受け継がれるお宝は、骨董・貴金属の類よりも、過去の記憶という面で重要な価値があると思います。この「おもちゃ籠」に込められた記憶を風化させず、四谷地区全体のお宝となるように、昔遊びを実践する場をぜひ設けてみたいものです。

(四谷お宝さがし実行委員長 豊村泰彦)



ユーモラスなカルタの紹介

編集・発行

四谷地区協議会【事務局】(四谷特別出張所内)
〒160-8581 新宿区内藤町 87 番地
電話 3354-6171 FAX. 3350-9403
E-mail : <http://www.city.shinjuku.lg.jp>

編集後記

区担当者によると「住居表示の整備」は区民との合意形成のもと推進しているため、実施には時間がかかるそうです。火災・事故の発生時等の通報を的確にわかりやすく伝えることにも役立っているとのことでした。(N)

次号は平成25年3月発行予定です。